

2025 年度（後期）海外渡航助成金成果報告書

筑波大学大学院 博士後期課程 1 年

山口 諒

日本地震学会より海外渡航旅費助成金による支援を受け、米国ルイジアナ州ニューオーリンズにおいて 2025 年 12 月 15 日～19 日に開催された AGU25 Annual Meeting に参加しましたので、その成果を報告いたします。

今回は「Interplate and Intraplate Fault Ruptures During the 2025 M_w 7.4 Earthquake in the Drake Passage」というタイトルでポスター発表を行いました。本発表は、2025 年 5 月にドレーク海峡北西部の沈み込み帯で発生した地震について遠地実体波 P 波形を用いたインバージョンを行い、その結果を報告するものです。この地震については、米国地質調査所が有限断層インバージョン法による即時解析の結果を公開しており、その波形フィッティングの特徴などから、断層形状や放射パターンが時間変化している可能性が考えられます。そこで本発表では、近年新たに開発されたポテンシー密度テンソルインバージョン法を本地震に適用し、断層形状とすべり分布の両方の時空間分布を含む震源過程モデルを推定することで、プレート間とプレート内にある互いに形状が異なる断層が連動して破壊した可能性を議論しました。

ポスター発表では、想像以上に多くの方々に興味を持っていただくことができ、充実した議論を交わすことができました。国際学会の経験がほとんどなく、英語でのやりとりには大きな不安がありましたが、発表を聞きに来てくださった方々が私の説明を非常に丁寧に聞き取ってくれ、有益なコメントや質問も複数いただくことができました。しかし、日本語で行う議論と比較すると、伝えたいことを伝えきれなかったり、相手の質問の意図を測りかねたりすることも少なくなく、英語力の向上が大きな課題であると感じました。

会期の 5 日間では地震学関連に限っても多数の発表があり、構造地質学や測地学などの隣接分野も含めると、とても見て回る時間が足りないほどでした。近年の政治状況もあり、今年の AGU 参加者は約 2 万人と昨年より 1 万人ほど減少したとのことですが、現地の熱気はそれをまったく感じさせないほどに強く、今後の研究に向けて非常に良い刺激を受けることができました。また、関連企業や研究機関による展示ブースの数や公式グッズコーナーの充実度は驚くほど高く、JpGU とはまた違った、国際学会としての祝祭的な雰囲気を肌で感じることができました。

学会の会場となったニューオーリンズの街は、ジャズの発祥の地であり、学会の会場となったコンベンションセンター内でも、昼休憩の時間帯に毎日生演奏を聴くことができました。また、会期中に行ったカフェやレストランでは、気さくで明るい現地の方々と交流することができ、それも貴重な経験となりました。

最後に、今回の渡航を支援していただいた日本地震学会、および関係者の皆様に心より御礼申し上げます。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



学会の会場となったコンベンションセンターのエントランス。



企業・研究機関による展示ブースの一角。